

商店街活性化事業計画の概要

地域

京都府京都市

認定日

平成24年4月13日

**事業名：「地域のまんなか 暮らしのまんなか 深草商店街」
暮らしのサロンの拠点づくりをきっかけとした商店街まるごとサロン化事業**

事業者名： 深草商店街振興組合

事業実施期間 平成24年8月～平成27年3月

■商店街活性化事業の概要

・商店街は、駅前で小学校も並ぶ地域の中心部に位置するものの、地域住民へのアンケート調査では、来街者の滞在時間は15分以下が半数、週2～3日以上の利用者が半数に満たない等、拠点性が失われている。

・目標は、「地域のまんなか 暮らしのまんなか 深草商店街」。地域密着型商店街として、お店がやさしく、人もやさしく、まち全体がやさしい商店街からの地域活性化をめざす。

・目玉事業は、暮らしを支え、豊かにする暮らしのサロンの整備。空き店舗を改装した拠点整備から、イベント開催、商店街全体の環境形成と事業を拡大し、商店街をまるごとサロン化する。

■商店街活性化事業の内容

◆地域住民ニーズ

・アンケート調査では、①商店街らしい雰囲気づくり、②店舗の集積増、③顧客、住民へのサービス強化、イベント増、情報発信強化、④コミュニティスペースの設置やゆっくりすごせる店舗増、⑤自動車、バイク等の通過交通に対して、安全で安心できる環境づくり等が指摘された。

・地域の代表者等による検討の場では、アンケート結果もふまえ、①商店街のイメージづくり、②憩いの場、サロンづくり、③交通問題の軽減、解消、④空き店舗の活用、⑤ホームページ、看板、マップづくり、⑥イベント、ポイントカードの活用という6点が重要との見解が示された。

◆実施計画の主な内容

・商店街内の空き店舗を活用し、地域住民と商業者が連携して運営する「(仮)ふかくさ暮らしの交流サロン」を整備運営する。交流サロンでは、福祉事業者が健康と地域食材にこだわった日替わりランチを提供する(a)福祉カフェ・憩い・交流事業を核に、(b)福祉、商店街セレクトショップ事業、(c)暮らし向上・教室事業、(d)イベント事業の4つの事業を展開する。

・商店街を中心として、商店街非加入店舗、地域団体、地域住民、大学等と連携して地域が一体となって行うイベント「(仮)地域住民をみんなでおもてなしする日」を年2回程度行う。

・サロン事業のポータルサイトを開設し、地域住民や学生等と共同で企画、運営する。

■商店街活性化事業計画の目標

・商店街の通行量を平成22年度現在の4,800人／台・9hに対して、5年後の平成29年度には5,000人／台・9h超をめざす。

・商店街全体の販売額を平成29年度まで毎年前年比1%増をめざす。(平成23年販売額22億円)

【交通量の多い現在の商店街】

【イベント時(100円商店街)】

【イベント時の様子(小学校)】

